



ヴァイオリン・レッスン・ルーム

巨匠の伝言

第71回

数種類のフィンガリングス
ベートーヴェン：ロマンス 第1番 ②

ヴァイオリニスト 木野 雅之
日本フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスター

URL : <http://www.masakino.com/>



数種類のフィンガリングス

新しい曲を見るときには、必ずと言っていいほど、どこか数ヶ所はスムーズに行かず、うまくいかない所に出くわすことはないだろうか。多くの曲をこなしていても咄嗟に対応できなかったり、自分に変な癖などがあって思うようにいかないことは誰もが経験することである。

そんな時は、ちょっとした工夫でうまくいく場合もある。例えば弓の使う位置を変えてみる。或いはボウイングそのものを変えてみるなども選択肢の一つであるが、フィンガリングス、つまり指使いそのものにもたくさんの種類でできるようにしておく、いざという時に大いに役立つことがある。

簡単なことから始めると、解放弦を使うか、4の指を使うか、といったことがある。基本的にはスケールで上がるときには0を、下がる時には4を使うといったこと。また、パッセージの途中にハーモニクスを混ぜるのも手段の一つとしては有効である。ただしこのテクニックには、かなり高度で根気のいる練習が必要で、ハーモニクスのとき、シフトのとき、楽器がふらつかず、しっかりと構

えられているようにすることは不可欠である。

また、フィンガリングスにおいて半音の所で同じ指を使うようにすると、シフトが極端に少なくなり、音程をしっかりと取る上でも有利に働くことがある。その為の練習は、スケールを同じ指で繰り返し行ない、しっかりと一つ一つの音を発音するように気を付けることが大切である。それもゆっくりから、かなり速めに行なえるまでに仕上げる。そして、いつでも手の動きがしなやかに、美しくなっていなければならない。

そうした練習を重ねた後、一つの難しい、どちらかといえば苦手なパッセージに遭遇したときには、何種類かのフィンガリングスで試す。そして、フィンガリングの違いにより変化する音色に集中し、自分が理想とする音、イメージする音、それらをじっくり見つけ、どの方法がベストか、また、その前後とのつながりも考えた上で決定する。そして、もう一つ注意すべきはフィンガリングスによってはボウイングを変えなくては難しい場合もある。弓の配分も研究すべきであるが、それは次回詳しく述べることにしよう。

Ludwig van Beethoven ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827) ドイツ

ロマンス 第1番 作品40 Romance No.1 Op.40

祖父はオランダ系、ボンに移住して宮廷礼拝堂の歌手。父も同じ宮廷歌手であった。ハイドン、サリエリ等に作曲を学ぶ。初期の古典風の作品から後期は、自己への沈潜とより深められた人類的理想の希求を秘めた音楽的極致に達した。

ロマンスとは、特にそのように定められた形式などが存在するわけではないが、そのタイトルからも連想されるように、ロマンティックでデリケートな性格を特色とした抒情的な器楽曲のことを指す。

「ロマンス第1番」は、第2番(本誌2003年1月号掲載)よりも作曲されたのは後とされているが、

〜トリオ・ミンストレル コンサートツアー2006〜
小川剛一郎(チェロ)、北住淳(ピアノ)、木野雅之(ヴァイオリン)

【福岡公演】9月27日(水)福岡銀行本店ホール 19:00開演
お問合せ:福岡音楽文化協会Tel:092-4148306

【東京公演】10月15日(日)トッパンホール14:00開演
お問合せ:ルイ・ムジークTel:044-865-2702

【大阪公演】10月22日(日)ザ・フェニックスホール17:00開演
お問合せ:大阪コンサート協会Tel:06-6762-2204
プログラム:C.ドビュッシー:ミンストレル/A.ピアソラ:ブエノスアイレスの秋/W.A.モーツァルト:トリオト長調K.564 他

●トリオ・ミンストレル オフィシャル・ホームページ
<http://www.minstrels.nobody.jp/>